

# 令和5年度 定期作況報告

(10月20日)

地方独立行政法人  
北海道立総合研究機構  
中央農業試験場

# 水稻の部

水田農業部(岩見沢市)

## I 気象概況

9月下旬の平均気温は平年より0.9℃高く、降水量は平年の19%、降水日数は平年より0.5日少なく、日照時間は平年の98%であり、少雨に経過した。

10月上旬の平均気温は平年より0.2℃高く、降水量は平年の221%、降水日数は平年並で、日照時間は平年の125%であり、多雨に経過した。

10月中旬の平均気温は平年より1.8℃高く、降水量は平年の143%、降水日数は平年より0.9日少なく、日照時間は平年の116%であり、高温多雨に経過した。

9月下旬から10月中旬までの平均気温は平年より1.0℃高く、降水量は平年の137%、降水日数は平年より1.0日少なく、日照時間は平年の112%であった。

## 気象表

(アメダス岩見沢)

年月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(hr)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9月	下旬	16.7	15.8	0.9	22.0	21.3	0.7	12.2	10.6	1.6	6.5	34.0	△ 27.5	3.0	3.5	△ 0.5	57.6	58.9	△ 1.3
10月	上旬	13.6	13.4	0.2	18.8	18.2	0.6	9.7	9.0	0.7	98.5	44.6	53.9	5.0	5.0	0.0	56.0	44.9	11.1
	中旬	12.0	10.2	1.8	17.2	15.1	2.1	7.3	5.5	1.8	60.5	42.3	18.2	5.0	5.9	△ 0.9	56.2	48.3	7.9
平均(合計)		14.1	13.1	1.0	19.3	18.2	1.1	9.7	8.4	1.3	165.5	120.9	44.6	13.0	14.0	△ 1.0	169.8	152.1	17.7

注1) 気象データはアメダス岩見沢を使用。

注2) 平年値は過去10年間の平均値。

注3) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値。

注4) 降水日数は、24時間降水量が0.5mm以上をカウント

注5) △は減を示す。

## II 作況

5月20日 平年並

事由: 播種は平年より2日遅い4月18日に行った。4月第5半旬は低温で経過したものの、出芽期は平年より1日遅い4月23日であった。出芽後は、5月第2～3半旬を除いて高温で経過した。移植は平年より1日早い5月19日に行った。

移植時の苗形質は、草丈が10.8-10.9cmで平年よりやや長く、茎数は1.0本/個体で平年並であった。主稈葉数は3.2-3.5枚で平年よりやや多く、第1葉鞘高は2.6-2.9cmで平年並、100本あたりの地上部乾物重は2.31-2.49gで平年よりやや大きかった。苗の充実度(地上部乾物重/草丈)は0.21-0.23で平年並であった。

以上により、現在の作況は、平年並である。

6月20日 やや良

事由: 移植直後の5月第5半旬は低温であったが、多照で経過したことから活着は良好であった。6月第1半旬は低温寡照に経過し、生育は緩慢となったが、6月第3半旬以降は高温多照に経過し、生育が回復したことから、草丈および主稈葉数はそれぞれ29.2-29.6cm、7.3-7.5枚で平年並、茎数は409-486本/m<sup>2</sup>で平年を上回った。

以上により、現在の作況は、やや良である。

7月20日 やや良

事由: 6月中旬から7月上旬まで高温に経過し、幼穂形成期は平年より2～3日早く、止葉期は平年より4～5日早かった。主稈葉数は10.1-10.3枚で平年並であったが、草丈および茎数はそれぞれ83.1-85.5cm、717-816本/m<sup>2</sup>で平年を上回った。

以上により、現在の作況は、やや良である。

8月20日 平年並

事由: 7月下旬から8月中旬にかけて気温は概ね高温に経過した。出穂期は平年より6～7日早く、穂揃日数は平年より1.8日短かった。穂数は631～688本/m<sup>2</sup>と平年並からやや少なかったが、稈長および穂長は67.0～67.9cm、16.8～17.4cmで平年よりやや長かった。

以上により、現在の作況は、平年並である。

9月20日 不良

事由: 8月下旬まで継続して高温に経過し、成熟期は平年より12-13日早く、登熟日数は平年より5-7日短かった。稔実歩合は91.4-94.1%、登熟歩合は84.6-87.9%と平年並であったが、一穂粒数が37.9-44.5粒と少なく、登熟粒数は22.9-23.8千粒/m<sup>2</sup>と平年を下回った。

以上により、現在の作況は、不良である。

10月20日 不良

事由: 籾摺歩合は「ななつぼし」で概ね平年並、「ゆめぴりか」で平年より3.1ポイント低く、屑米歩合は「ななつぼし」で平年より0.9ポイント低く、「ゆめぴりか」で平年より2.9ポイント高かった。精玄米千粒重は平年より0.3～0.7g下回った。わら重、精粒重はそれぞれ平年比100～103%、95～96%であり、屑米重は「ななつぼし」で平年比78%、「ゆめぴりか」で平年比130%であった。登熟粒数は平年を下回っていたが、精玄米千粒重は概ね平年並で、精玄米重は平年よりやや少ない50.8～55.8kg/a、収量平年比は92～95%であり、2品種平均では精玄米重53.3kg/a、収量平年比93%であった。なお、「ゆめぴりか」の玄米品質は乳白、背腹白等の未熟粒が多く、検査等級の低下が懸念される。

以上により、現在の作況は、不良である。

作況指数(収量平年比)と作柄(作況)の判定基準 (農林水産省の統計基準による)

作況指数	～94	95～98	99～101	102～105	106～
作柄	不良	やや不良	平年並	やや良	良

品種名 苗種	ななつぼし 中苗			ゆめびりか 中苗			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
年次							
播種期 (月.日)	4.18	4.16	2	4.18	4.16	2	
出芽期 (月.日)	4.23	4.22	1	4.23	4.22	1	
移植期 (月.日)	5.19	5.20	△ 1	5.19	5.20	△ 1	
幼穂形成期 (月.日)	6.28	6.30	△ 2	6.28	7.01	△ 3	
止葉期 (月.日)	7.13	7.17	△ 4	7.13	7.18	△ 5	
出穂期 (月.日)	7.21	7.27	△ 6	7.21	7.28	△ 7	
成熟期 (月.日)	8.31	9.13	△ 13	9.01	9.13	△ 12	
穂揃日数 (日)	5.0	6.8	△ 1.8	5.0	6.8	△ 1.8	
登熟日数 (日)	41	48	△ 7	42	47	△ 5	
生育日数 (日)	135	150	△ 15	136	150	△ 14	
草丈(cm)	移植時	10.8	10.3	0.5	10.9	10.3	0.6
茎数(本/個体)	移植時	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	0.0
主稈葉数(枚)	移植時	3.2	3.1	0.1	3.5	3.3	0.2
第1葉鞘高(cm)	移植時	2.9	2.8	0.1	2.6	2.6	0.0
地上部乾物重(g/100本)	移植時	2.31	2.22	0.09	2.49	2.22	0.27
地上部乾物重/草丈	移植時	0.21	0.22	△ 0.01	0.23	0.22	0.01
草丈 (cm)	6月20日	29.2	28.0	1.2	29.6	28.0	1.6
	7月20日	83.1	67.0	16.1	85.5	66.6	18.9
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	6月20日	409	310	99	486	369	117
	7月20日	717	674	43	816	787	29
主稈葉数 (枚)	6月20日	7.3	7.0	0.3	7.5	7.2	0.3
	7月20日	10.1	10.1	0.0	10.3	10.5	△ 0.2
	止葉	10.1	10.1	0.0	10.3	10.5	△ 0.2
稈長 (cm)		67.9	65.7	2.2	67.0	64.1	2.9
穂長 (cm)		16.8	15.9	0.9	17.4	16.6	0.8
穂数 (本/m <sup>2</sup> )		631	642	△ 11	688	751	△ 63
一穂粒数 (粒/本)		44.5	50.8	△ 6.3	37.9	41.0	△ 3.1
粒数 (千粒/m <sup>2</sup> )		28.1	32.6	△ 4.5	26.1	30.8	△ 4.7
稈実歩合 (%)		91.4	94.5	△ 3.1	94.1	93.9	0.2
稈実粒数 (千粒/m <sup>2</sup> )		25.7	30.8	△ 5.1	24.6	28.9	△ 4.3
登熟歩合 (%)		84.6	89.0	△ 4.4	87.9	86.8	1.1
登熟粒数 (千粒/m <sup>2</sup> )		23.8	29.0	△ 5.2	22.9	26.7	△ 3.8
粒摺歩合 (%)		78.5	78.2	0.3	72.3	75.4	△ 3.1
屑米歩合 (%)		4.3	5.2	△ 0.9	10.6	7.7	2.9
精玄米千粒重 (g)		22.6	22.9	△ 0.3	22.7	23.4	△ 0.7
わら重 (kg/a)		63.4	61.6	1.8	62.4	62.4	0.0
精粒重 (kg/a)		71.1	75.1	△ 4.0	70.3	73.6	△ 3.3
精玄米重 (kg/a)		55.8	58.7	△ 2.9	50.8	55.5	△ 4.7
屑米重 (kg/a)		2.5	3.2	△ 0.7	6.0	4.6	1.4
収量平年比 (%)		95	100	△ 5	92	100	△ 8
検査等級			2上	-		2上	-

注1) 平年値は前7ヶ年中、令和4年(最豊)、平成30年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注2) 耕種概要

土壌 : 細粒グライ土

施肥 : 高度化成472全層施肥 N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=8.0-9.7-6.9 kg/10a

播種量 : 中苗紙筒=160cc/箱

栽植密度 : 33.0×12.0cm 25.3株/m<sup>2</sup> 4本植え

移植方法 : 手植え

反復 : 2

注3) 登熟歩合は枝梗や芒を取り除いた粒を比重1.06の食塩水によって調査。

注4) 精玄米千粒重、精玄米重および屑米重は水分15%換算値。使用した篩目は1.90mm。

# 畑作の部

作物G(長沼町)

## I 気象概況

令和5年9月下旬～10月中旬までの概況は次のとおりである。

9月

下旬：平均気温は1.3℃高く、降水量は平年の41%、日照時間は平年の91%であり、平年より高温少雨であった。

10月

上旬：平均気温は平年より0.4℃高く、降水量は平年の275%、日照時間は113%であり、平年より多雨多照であった。

中旬：平均気温は平年より2.0℃高く、降水量は平年の105%、日照時間は113%であり、平年より高温多照であった。

以上、1ヶ月を通じ、平均気温は平年より1.2℃高く、降水量は平年の143%、日照時間は平年の105%で、高温多雨であった。

気象表

道総研中央農試(アメダス長沼)

年月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(hr)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9月	下旬	16.8	15.5	1.3	22.4	21.1	1.3	11.7	10.3	1.4	13.5	33.3	△ 19.8	5.0	2.9	2.1	53.9	59.0	△ 5.1
10月	上旬	13.7	13.3	0.4	19.0	18.2	0.8	9.4	8.6	0.8	97.0	35.3	61.7	4.0	4.8	△ 0.8	51.0	45.1	5.9
	中旬	12.1	10.1	2.0	17.8	15.3	2.5	6.7	4.9	1.8	34.0	32.3	1.7	3.0	4.2	△ 1.2	59.0	52.1	6.9
平均(合計)		14.2	13.0	1.2	19.7	18.2	1.5	9.3	7.9	1.4	144.5	100.9	43.6	12.0	12.0	0.0	163.9	156.2	7.7

注1) 気象データはアメダス長沼。

注2) 平年値は過去10年間の平均値。

注3) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値。

注4) 降水日数は、24時間降水量が0.5mm以上をカウント。

注5) △は減を示す。

## II 作況

### 1. 秋まき小麦(令和5年播種)

令和5年10月20日作況：やや不良

事由：播種期は平年より8日遅い9月25日であった。出芽期は平年より6日遅い10月1日となった。10月20日現在で草丈は平年より短く、茎数は平年より少ない。

以上により、現在の作況はやや不良である。

項目 \ 年次	品種名	きたほなみ		
		本年	平年	比較
播種期	(R5.月.日)	9.25	9.17	8
出芽期	(R5.月.日)	10.1	9.25	6
出穂期	(R6.月.日)		6.2	
成熟期	(R6.月.日)		7.17	
冬損程度	(0:無～5:甚)		0.6	
草丈 (cm)	R5.10.20	14.6	20.3	△ 5.7
	R6.5.20		53.4	
	R6.6.20		99.8	
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	R5.10.20	469	662	△ 193
	越冬前(11月)		1281	
	越冬後(4月)		1925	
	R6.5.20		1325	
	R6.6.20		837	
成熟期に おける	稈長 (cm)		88	
	穂長 (cm)		9.2	
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )		803	
倒伏程度	(0:無～5:甚)		0.1	
子実重	(kg/10a)		844	
容積重	(g)		830	
千粒重	(g)		39.1	
品質	(等級)		1等	
子実重平年対比 (%)			100	

注1) 令和5年播種より、播種量および追肥量を変更した(下線)。

播種粒数:200粒/m<sup>2</sup>、施肥:基肥4kg/10a

追肥:起生期(翌年4月頃)硫安6kg/10a、止葉期(翌年5月頃)硫安4kg/10a。

平年値:変更後の播種粒数および追肥量による平年値を記載。

前7か年中、令和5年(最豊)、平成30年(最凶)を除く5か年平均(収穫年度)

5月20日、6月20日の草丈および茎数は令和2年を除く4か年平均。

注2) △は平年より早、短、少を表す。

注3) 倒伏程度:成熟期における倒伏程度。

注4) 容積重はブラウエル穀粒計により測定した値。

## 2. 春まき小麦 記載事項なし

### 3. 大豆

6月20日 平年並

事由:播種期は平年より4日早い5月17日であった。播種後降雨があったため順調に出芽し、出芽期は平年より4日早い5月29日であった。主茎長はやや長く、主茎節数は平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日 平年並

事由:6月中旬以降高温に経過したことから、開花期は平年より4日早い7月12日であった。主茎長は平年より長い、主茎節数は平年並、分枝数は平年よりやや少ない。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日 やや良

事由:主茎長は平年より長く、主茎節数は平年並、分枝数は平年よりやや少ないが、期間中高温に経過し、降雨も適度であったことから、着莢数は平年比119%と上回っている。

以上により、現在の作況はやや良である。

9月20日 良

事由:前節同様に、主茎長は平年よりやや長く、主茎節数は平年並、分枝数は平年よりやや少ないが、莢数は平年比119%と上回っている。

以上により、現在の作況は良である。

10月20日 良

事由:9月中旬以降、成熟がやや緩慢になり、成熟期は平年並であった。一莢内粒数は平年並で、百粒重は平年より2.8g軽かったが、着莢数が平年比117%と多かったことから、子実重は平年比112%と多収となった。

以上により、現在の作況は良である。

品種名		トヨムスメ		
		本年	平年	比較
項目 \ 年次				
播種期	(月.日)	5.17	5.21	△ 4
出芽期	(月.日)	5.29	6.2	△ 4
開花期	(月.日)	7.12	7.15	△ 3
成熟期	(月.日)	9.29	9.29	0
主茎長 (cm)	6月20日	11.7	10.6	1.1
	7月20日	56.7	42.5	14.2
	8月20日	59.0	54.7	4.3
	9月20日	59.0	54.5	4.5
	成熟期	58.9	54.3	4.6
主茎節数 (節)	6月20日	3.3	3.0	0.3
	7月20日	9.7	9.3	0.4
	8月20日	9.9	9.8	0.1
	9月20日	9.7	9.7	0.0
	成熟期	9.5	9.7	△ 0.2
分枝数 (本/株)	7月20日	6.1	6.2	△ 0.1
	8月20日	6.3	6.7	△ 0.4
	9月20日	6.1	9.7	△ 3.6
	成熟期	5.9	6.3	△ 0.4
着莢数 (莢/株)	8月20日	90.2	75.6	14.6
	9月20日	80.0	67.2	12.8
	成熟期	80.1	68.3	11.8
一莢内粒数		1.85	1.83	0.02
子実重	(kg/10a)	454	406	48
百粒重	(g)	36.1	38.9	△ 2.8
屑粒率	(%)	1.1	2.0	△ 0.9
品質	(等級)		2上	
子実重平年対比 (%)		112	100	12

注) 平年値は前7カ年中、平成30年(最凶)、令和3年(最豊)を除く5カ年平均。



#### 4. 小豆

6月20日作況：平年並

事由：播種期は平年並の5月24日であった。出芽期は平年より3日早い6月7日であった。6月20日現在の主茎長は平年よりやや短く、主茎節数は平年よりやや多い。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日作況：やや良

事由：期間を通して気温は平年より高く、適度な降水があったことから、生育は早く進んでいる。開花期は平年より8日早い7月18日であった。7月20日現在の主茎長は平年より長く、主茎節数は多く、分枝数はやや多い。

以上により、現在の作況はやや良である。

8月20日作況：平年並

事由：8月20日現在の主茎長は平年よりやや短く、主茎節数は平年よりやや多く、分枝数および着莢数は平年並であった。

以上により、現在の作況は平年並である。

9月20日作況：やや不良

事由：成熟期は平年より14日早い9月5日であった。成熟期における主茎長は平年より長く、主茎節数はやや多く、分枝数はやや少なかった。着莢数は平年より少なく、一莢内粒数は多かった。一部の莢でマメノメイガによる食害が見られる。

以上により、現在の作況はやや不良である。

10月20日作況：不良

事由：子実重は195kg/10aで、平年比58%であった。開花期以降全般に高温で経過したため、百粒重は平年よりかなり軽く、虫害などの影響により、屑粒率は高かった。

以上により、現在の作況は不良である。

品種名		エリモシヨウズ		
項目 \ 年次		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.24	5.24	0
出芽期	(月.日)	6.07	6.10	△ 3
開花期	(月.日)	7.18	7.26	△ 8
成熟期	(月.日)	9.05	9.19	△ 14
主茎長 (cm)	6月20日	3.9	4.7	△ 0.8
	7月20日	20.3	16.9	3.4
	8月20日	55.4	57.9	△ 2.5
	成熟期	65.1	61.1	4.0
主茎節数 (節)	6月20日	2.1	1.4	0.7
	7月20日	10.2	7.3	2.9
	8月20日	16.1	14.8	1.3
	成熟期	16.3	14.5	1.8
分枝数 (本/株)	7月20日	3.0	2.4	0.6
	8月20日	3.9	3.6	0.3
	成熟期	3.2	4.3	△ 1.1
着莢数 (莢/株)	8月20日	43.4	44.0	△ 0.6
	成熟期	41.2	51.8	△ 10.6
一莢内粒数		7.06	6.10	0.96
子実重	(kg/10a)	195	338	△ 143
百粒重	(g)	9.8	14.0	△ 4.2
屑粒率	(%)	10.2	6.3	3.9
品質	(等級)		3上	
子実重平年対比	(%)	58	100	△42

注1) 平年値は前7カ年中、平成29年（最豊）、令和2年（最凶）を除く5カ年平均。

ただし、平成30年は6月20日時点で出芽期に達していなかったため、6月20日の主茎長と分枝数の平年値は平成30年も除いた4カ年平均。

5. ばれいしょ 記載事項なし

## 耕種概要

平成13年度より、すべての作物で土壌物理性・排水性が改良された基盤整備後の圃場を使用している。

	一区面積 (㎡)	反復	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	一株本数	播種粒数 (粒/㎡)	株数 (株/10a)
秋まき小麦 ~R4播種	9.6	4	ひまわり	20	条播	—	255	—
R5播種~	9.6	4	ひまわり	20	条播	—	200	—
春まき小麦	4.8	4	ひまわり	30	条播	—	340	—
大豆	8.4	3	デントコーン	60	20	2	—	8,333
小豆	8.4	3	デントコーン	60	20	2	—	8,333
ばれいしょ	10.8	3	エン麦	75	30	—	—	4,444

	10a当たり施肥量(kg)					備考
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	堆肥	
秋まき小麦 ~R4播種	4.0+6.0	8.0	4.0	0.8	—	N:基肥4+起生期6(4/3)
R5播種~	4.0+6.0+4.0	8.0	4.0	0.8	—	N:基肥4+起生期6(*/*)+止葉期4(*/*)
春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0	—	
大豆	1.5	12.5	6.5	3.5	—	
小豆	4.2	16.8	9.8	3.5	—	
ばれいしょ	10.4	16.4	13.6	—	1000kg	

## 中央農試作況報告について

当報告は、中央農業試験場のほ場において行った生育調査について、調査時点における値を中央農業試験場の平年値と比較したものであり、当該管内の作況を代表するものではありません。